

(5) 児童虐待と育児支援

川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科 谷野宏美

学童保育指導員の児童虐待発見の状況と対応の現状を明らかにすることを目的に研究を行った。

虐待発見及び対応の経験のある学童保育指導員を対象に、「児童虐待を疑った際の状況」、「発見時の子どもの状態」、「発見した児童虐待への対応策」、「対応できなかった理由」等について半構成的面接法を用いて調査を実施した。その結果、学童保育指導員が児童虐待を発見することは可能であり、児童虐待の徴候として、生活に関する項目や子どもの変化に関する項目が認識しやすいことがわかった。さらに、学童保育指導員は保護者や家族の観察や関わりから情報得て、児童虐待の徴候の判断に活用していた。また学校との連携は可能であるが、学童保育指導員と教員との信頼関係が必要であること。児童相談所・医療機関等との連携については課題があり、今後の検討が必要である。そして、学童保育指導員への研修が必要であることがわかった。